図書館だより

上田女子短期大学

上田女子短期大学
図書委員会発行

読書雑感

館長　鈴木鳴海

読書にもいろいろな型があるようだ。精読乱読が一般の型とされている。私の場合十代から二十代は乱読であったが十代は文学ものに終始し、二十代になると文学と哲学、社会学等をチャンポンに読んだが、精読でもなく乱読でもなく素読であった。文学は主として小説であったが、たゞ話のすじを追っていくだけで作者の人生観、世界観を鑑賞しようなんてことはしなかった。哲学書を若干よむようになってから小説の組み立て、表現されている言葉から作者の人生観をよみとることができたように思う。

三十代になると読書は完全に社会科学系のものとなり、著書の中から社会の構造、社会の変動、文化、イデオロギーを学んだ。学んだというよりも傾倒してしまった。中学生の頃「読書は眼光紙背に徹し」て主体性を失ってはいけないと、先生に教わったが、とてもそこまで到達するだけの力はなかった。主体性のないまゝ読んだものが、そのまゝ己れの知識、意識の如く思い込んで、仲間と論じ合った。今から振り返ってみると何ともはかない時代であった。

四十代になって、ものを書くようになってから漸く本を読んでも本にとらわれることがなくなり、自分なりに批判ができ、自らの思考をそのままペンにのせることができるようになったが、このようになった因をたずねると、矢張り十代、二十代、三十代に読んだものが私の頭の中で血となり肉となっていることを否定することができない。

そこで次のように提言したい。

若い時に大いに乱読すること。

若いうちにいろいろ書いてみること。

三十過ぎたら座右の書を五、六冊きめておくこと。

年をとったら気に入った本をくり返しよむこと。

現在の私は、あまり本はよまない、いわゆる積んでおく本が多くなっている。それでもこの中から時折抜き出して読むのであるが、歎異抄に関する本が最も多く読まれていることに気づくようになった。人生の終末期を迎えて、最早やいろいろな知識は不要である。たゞ一筋に人間とは何かを摑みたいという欲求が私を右のような傾向にしていると思っている。

書物との出合い

須永　淑

何か良い本はありませんかと問われて答えようがなくて困ったことが幾度かある。考えた末にすゝめた何冊かもその人にとって本当に良いかどうか決定的なことは言えない。良書などと簡単にいうけれどすゝめる側でどんなに良くても求める側で必らずその通りとはいえない。本の値打をきめるのは主観的なものが大きい。それだからこそ各人にふさわしい本選びをするのだと思う。

日常よむ本は数多いと思うが大きく三種に分けられる。第一は仕事に関する専門書の類で、勉強として必らず読まねばならぬものだ。第二は生活全般に関する常識、教養、実用書などで読んだら何かしら利益があるとか、ためになるとかまあ読んだ方がよいものである。第三は直接には何も期待せずたゞ好きで読む本である。それでどうするということはなく、読んでも読まなくても外見上は変りない。その人だけの世界のことでは、良い本をすゝめるのはむづかしい。

私はもとから本に対して何でも屋であり気まぐれだといわれ又野次馬的でさえあった。それでいて結構たのしかった。

本屋にぶらりと入ってずーっと見渡して手にとる。書名、装丁、手ざわり、そして目次を見て頁をパラパラ奥附や著者の経歴などを目にとめる。興味をもったら財布と相談、そして手に入れる。あとはその本次第で気に入ったら生涯心に止まって何回もよみたくなるし、一読あたまの中を通りぬけてそれっきりのものや、もっと悪いのは読みかけていやになりやめてしまうのもある。まるで世の中の人々の出合いのように。

こうして私とふれ合った本はずい分あるがもう思い出せないもの

が多い。一方ではふとした機会に目を通したものが私をとらえてしまって忘れられず、読みかえしたり思い出したり味を深くして終生の伴侶のようになってしまうものもある。不思議な御縁というほかないのが只一冊との出合いである。

私の場合学生時代に或研究の資料として源氏物語に目を通すはめになった。これをきっかけに私は完全にこの古典のとりこになってしまった。その時は資料のためにという下心があってよんだので、深く読み浸っているひまもなく、目的の事項を読みとるのに追われて何とも味けない読みすごしかたをしてしまった。この心残りな感じが忘れられず、後にゆとりができてくると読みたくなり、関係の出版物もほしくなって、少しずつ読みかえしながら今日に至っている。おそらく生涯つづく私のひそやかな心の遊びである。

本にふれる機会をたくさん与えられた人は幸福だ。その中には必らず自分に語りかける生涯の友に出合うだろうし、忘れる本も意識の下で心の背景をひろげ、人間性の目をひらき、密度の高い生き方をさせてくれるものだ。その意味では図書館利用も古本屋のぞきも立ち読みも大いに結構、でも今私がほんとうにのぞむことは、出版物の充分な情報がいつでも組織的に入手できて、その上本がもっと安く手に入るような世の中になってほしいことである。

私の読書　文庫本の巻

塩入秀敏

近頃は文庫本戦争だという。成程、岩波文庫、角川文庫、新潮文庫、講談社文庫等の列強をはじめ旺文社文庫、中公文庫、現代教養文庫、青木文庫、国民文庫等々、十指に余る文庫本が、鎬を削って売り上げの多寡を競い合っているのだから、まさに群雄割拠の戦国時代の様相を呈している。この戦争には多くの批判も出ている。曰く「同じものがどの文庫にも入っている」「カバーにこり金をかけすぎる」「出版社それぞれの個性がなくなった」などである。商店であるから競争はつきものだろうが、売らんかなの商魂は狂乱物価と相俟って、戦争をますますエスカレートさせるのは必至であろう。

戦争勃発以前、文庫本は安かった。今でもほかの単行本などに比べると確かに安いが、私達の懐具合では、一昔前の「安い」のとは大変な違いである。その安かった文庫本の恩恵をどれ程蒙ったかしれない。学生を大事にする京都でも、親切に金を恵んでくれる人はいない。大方の男子学生は慢性浪費性金欠症で苦しんでいた。計画的支出を心掛ければいいのだが、そんな事は女のする事と退け、月初め大名月末乞食の生活を懲りもせず繰り返す。おかしな事に、金のあるうちは（酒を飲みに行くのが忙しいのか）本など読む気もなく、金がなくなってくると（動きがとれなくなるからか）本でも読もうかという気になる。そこで買える本も、いきおい安い文庫本になるというわけである。その上古本が多いのは、余程悪性の金欠症にかかっていたらしい。

学生時代、文庫本はよく読んだ。いま言ったように文庫本しか買えなかったのだが、文庫本をよく読んだことが、私の進むべき道（少し大袈裟ではあるが）を決定することになった。というのは、国文か将又歴史かを専攻の選択を決めかねていた頃、古今東西分野に関係なく、そして体系もなく文庫本をむやみやたらに読んでいて、岩波文庫『平家物語』上下二冊を読んだ。勿論それ迄に冒頭や、忠度都落ち、大原御幸などの部分は読んでいたが、全巻通して読んだのはそれが初めてであった。古代の没落と中世の成立を哀調深く語る『平家物語』は、私を捉えて離さなくなってしまった。その時である「よし日本古代中世史をやろう」と決心したのは。

それからは、文庫本を読むこと自体に変わりはなかったが、少し体系的に歴史や歴史学に関するものを読むようになり、ついには歴史研究を仕事にすることになってしまった。実に恐ろしきは一冊の本との邂逅である。

一方、文庫本乱読時代から、本は薄暗い紫煙むせるばかりの喫茶店でしか読めないという変な癖がついてしまった。大学の前に「わびすけ」という喫茶店があり、大学よりもアカデミックで且又快いサロンであったこの店に、それこそ「わびすけ」に行くついでに授業に出ると云われる程、毎日かよった。そして「日に一冊の文庫本と、一杯の珈琲があれば、私はそれでこと足りる」などと気障っていたのもこの頃である。文庫本の多くもここで読まれた。大学二年生頃から急に眼鏡を使用しなければならなかったのは、更に又乱視が入ったのは、思えばその所為かもしれない。

閑話休題。サムセット、モームが「読書は人を賢こくはしない、ただ物識りにするだけだ」というのも、ある意味で一理ある。私に云えることは、本は読まないより読んだ方がいいだろうということと、あまり暗い所では読まない方がいいだろうということだけである。

鼻を読んで

一年　米田みち子

芥川龍之介の「鼻」との出合いは三度目になる。いつ読んでも暖まるような感じのおもしろいものだと思う。

禅智内供は鼻がぶらりと長い。実際長い鼻は何をするにもじゃまで、やさしい心の内供の一生の悩みになろうとしていた。

彼の、鼻をなんとか短かく見せようとする苦心や、過去の書物を調べて鼻が長かった人を見つけて自分の慰めとしようとする努力は、こっけいに見えるが愛らしい。それでも彼なりに一生懸命にやっているのかと思うと、彼のとてもやさしい心もちがうかがえる。

禅智内供はある日弟子の僧から鼻を短かくする方法を教わり、さっそく試してみる。それがまた今では考えられないほどばかくさいことをしている。ここで必ずふき出してしまう。鼻をゆでるのだ。そして短かくはなったが今度は長い方が良かったと思い始める。ころころと気持ちのかわる禅智内供は、今の世の中にもたくさんいるのではないだろうか。つまらないことを気にして過去のことをなつかしむ。今を大切にしようとしない。

禅智内供の鼻は結局は、一度は短かく普通にもどった鼻が再び元のようにぶらりとさがってくるのだが、一人の繊細な心をもつ人間の動きがとてもおもしろく表現されているものだと思う。読んで行って笑ってしまうけれども、笑ってばかりはいられず、彼のひっしの気持ちがずんずんと迫ってくるような気がする。

一面ではさし迫った緊張感、また一方ではどちらにも傾く場合のある人間の、不安定で微妙な心理が現われているように思う。

小さいころに読んだ時は、かわった鼻のおもしろさにひかれ、今また読んでみると、その鼻をもとに次々と移りかわって行く心の動きのおもしろさにひかれる。

同じ作品をくり返して読むこともまた違った味が出てきておもしろいものではないだろうか。

思いつくままに

二年　石原照美

気づかないまゝに、美しい紅葉を見せはじめた連山が金色の朝日を受け、やがて再び金色の夕日に映える。何とも言えない安定した暮色におおわれていく。そんな自然の姿に、ふと魅惑されられる時がある。そこに何という美しさを暖かい愛を、平和を、人間への深い思いやりを感じることか。そんな雄大な姿に時折、冷酷さを感じることはあっても、そこに憎しみのわくことはない。

この世にあってやっと生きているだけにすぎないちっぽけな自分というものに、大きな哀れみと不安を感じながらも、その大自然の前の自分を発見する時、何かが燃えていること、将来への希望、この世に生をうけた喜びと満足が、無意識のうちに言いようのない暖かい感動、言い知れぬ深い感動に浸される。これは自己に対する愛

○ 読書のシーズンです！

西友ストアー5Fにオープンしました。

ご来店下さい……

KK西沢書店

上田市中央3－1－12（原町）(2)0024

西友ストアー　5F　(4)7111

情から生まれるものだ。人々の間に、又自然の間に…何らかの愛情が持てるという事はすばらしい。そこに一途な献身的なまでの深い愛情を注ぐことができる喜びは、幾千万の美しい形容にも表現され得ないまでに美しい。ある時は微妙に、ある時は大胆に、的確のものでありながら、その表現は決して容易なものではない。時には、反対に疑惑の思いをいだかせてしまう時さえある。そのようなものであればある程、愛情を見い出した時、そこに生きがいを感じ、今までに見なかった生々とした自分を発見して、ハッとさせられる。愛情の力を強く感ぜずにはいられないからだ。

利用案内

最近利用規定を守らない人が増えました。規定を厳守して下さい。

一、図書の貸出は一度に三冊以内
一、期間は一週間
一、カバン、コートの持込を禁ずる。
一、帯出票には所定事項をきちんと記入する。
一、雑誌のバックナンバー等は紛失に注意して貸出する。

トットのごほん

飯田正江

「ドタ・ドタ・バサツ」一才九カ月になる娘が、本箱から本をひきずりおろした。そしてその中のお気に入りをエッサエッサと運んでくる。きょうも朝から何度も読まされた。いえ見させられた。

彼女も日増に言葉数がふえてきた。「ターチャンノ、ターチャンモ」とか「ブーブー、いっぱい」「ママ、ガツコウ」等、目分のもの、二語を上手につないで使えるようになってきた。手紙や本をひろげては「ムニャムニャ、○△□×」と彼女流に読んで(?)いる。

彼女が本に興味を示し始めたのは、歩き始めた頃（十一カ月）だった。「いぬとねこ」という絵本がすきだった。そのうちに「トット」という言葉を覚えた。すると料理の本を持ってきては、「トット」を捜させた。食の細い彼女が魚を見ると「トットトット」と言ってよく食べた。言葉は食事にも本にも、生活にも（金魚をかったり）色々なことに影響を与えた。彼女にとっては、ずいぶん世の中が広くなったし、うれしいことだったにちがいない。そのうち、料理の本だけではあきてしまい、魚の本を捜したがなかなかなかった。とうとう「魚貝の図鑑」というものものしい本を買った。その本は今でも大好きで、誰れかれかまわずつかまえては、魚の名前を言わせ、目分がそれを指さしては満足し、だいぶ名前も覚えた。この時期の覚えの速さはバツグンで驚くばかりである。

他に、子どもがはじめてであう本「うさこちゃんとどうぶつえん」他三冊、この本も一才ぐらいからよく見ていた。今彼女のお気に入りは「おどうぐ」「くらしとしつけのずかん」「カリキャラマシーン」「すきなもの」という本で、毎日、あきずに見ている。

子供が始めに興味を示すのは、とにかく動物で、本もぬいぐるみも、「ワンワン」「ニャンニャン」だ。「のりもの」の本もかなりあるが興味を示さない。女の子だからだろうか。

子どもの本の専門店
英文堂書店
上田市海野町
TEL 2－3934

紙，文具，事務用品
コクヨスチール製品
志摩文具店
上田市中央1－4－5
TEL 2－1495

さてこうして、あらためてふりかえってみると、彼女に、もっと夢のあるもの、すてきな絵の本を与えなければいけないと気づく。本屋には、沢山本が並び、どれを選んでいいのやら迷ってしまう。私が欲しくなるような本も沢山ある。どんな本をどんな時期に与えたらいいのか、もう一度考え直したいと思う。

きょうはおみやげに、夢がいっぱいの本を買っていってやろう。彼女のうれしそうな顔が浮んでくる。

！！！！！！！！！！！！

書物との密月を終えて

浦沢和子

私は書物というものと今までかなり深く関わり合いをもってきたと思うし、物心ついてから生活の大部分を書物に支配されてきたように思う。一時期軽度の書物不信に陥ったことはあったが、それ以外は読書することに何の疑問も抱かないで読書という行為に無条件の信頼を捧げてきたように思う。

にもかかわらず、この頃、書物の強力な呪縛から逃れたいという誘惑に駆られ、数冊の辞書と聖書と古代ギリシア、ローマの哲学者たちの著作を除いてあとの残りのすべての本を古本屋に叩き売ったら面白かろうと空想したりする。

書物は、臆病で勇気がなくしかも金銭の乏しさ故に定着せざるをえなかった私の狭い世界を動かず居ながらにしてしかも手軽な費用で拡大深化させてくれ、私は直接に自分の経験できない世界を書物を通して間接的に経験することができた。私は『千夜一夜物語』でアラビアンナイトの世界に遊び、『こころ』で人間のエゴイズムにまつわる深刻な苦悩を経験し、『罪と罰』で奇怪な観念にとりつかれて殺人を犯し、『ボヴァリー夫人』で不義密通の恋をし追いつめられてゆき、『戦場の村』でヴェトナムのシヴィリアンの苦しい悲惨な生活を体験し、種々の哲学書を通して様々に解釈され理論化された世界や人間についての知識を得また世界や人間を様々に解釈し理論化することの痛快な面白さを知った。

だが、こうした生活を長く続けると、今度は逆に書物というヴェールを通してしか現実世界に接しられない、つまり間接経験のみ豊富で直接経験に乏しく具体的現実世界と生きた関係を結びない書物の囚われ人になる危惧をおぼえるのである。

私は、『方法序説』で、「書物による学問をまったく放棄し」「自分のなかに、あるいは世間という大きな書物のなかに発見されるかもしれない学問以外はもはや求めない決心」を断固として宣言し敢然と世間へ飛び込んでいったデカルト程、明晰な自覚に達しておらず末だ書物への愛着は強く世間へ身を挺してゆく勇気に乏しいが、書物と自分との密着した水いらずの関係を反省するようになったことは、今までの私の現実世界との間に距離を置いて抽象のレヴェルに生きる生活のもつ一面での不健全さ、空虚さを、私の人間としてのボン・サンス（良識）がもはやよしと認めようとしなくなったからなのだろうか。

レファレンスコーナー
（参考相談）

図書館

図書館では情報（知識）提供サービスのことを「調査相談」又は「参考相談」といっています。身近な問題、知りたいと思っている事項等、問題解決のため質問を受けそのお手伝いをするわけです。但し身の上相談、クイズの答、宿題の答等はしないことになっています。そのための関係の資料の提供はします。

最近のレファレンスから、一、二ひろってみると、

一、サルの染色体はいくつあるのか。

一、通信教育で短大を卒業するにはどんな大学があるか。

一、早乙女勝元（作家）の経歴は、著書は何か。

一、「富岡日記」（和田英子著）はどこで出版したものか。又、今でも手に入るか。

等々です。本学の図書資料では調査不充分な場合も多いのですが、図書館相互協力によって県立図書館や、国立国会図書館等に問い合わせします。

レファレンスサービスを受けましょう。

新着書あんない

世界教育史大系 7, 21, 36巻　（講 談 社）
長野県教育史 5, 8 巻　（長野県教育史刊行会）
英米児童文学年表　索引　（研 究 社）
保育の心得１２章　（知能教材センター）
子どもの遊びと手の労働　（あすなろ書房）
ペイネ愛の本　（みすず書房）
伝承あそび12ケ月春、夏の巻　（黎 明 書 房）
幼児とともに　（信濃教育会）
家庭教育シリーズ６～10　（　〃　）
望月の駒（童話信濃のむかし）　（信濃毎日新聞社）
下伊那公民館活動史　（興 文 社）
討論、戦後教育の潮流　（日本放送出版協会）
未開社会における性と抑圧　（社会思想社）
ホモ・ルーデンス　（中 央 公 論）
合理主義の復権　（木 鐸 社）
世界文学全集　全50巻　（河 出 書 房）
浮世絵大系 3, 8, 12,　（集 英 社）
みんなでたのしく　（フレーベル館）
幼稚園幼児指導要録解説改訂版　（　〃　）
幼稚園教育要領解説　（　〃　）
図説日本の歴史 3, 4, 5,　（集 英 社）
信濃国分寺　―本編―　（吉川弘文館）
二十歳の原点　（新潮社）
手づくり人形　（保育社）
ああ野麦峠　（朝日新聞社）
幼児のリトミック　（全音楽譜）
国民の教育権　（岩波書店）
論文の書き方　（　〃　）
自由を子どもに　（　〃　）
私の幼児教育論　（　〃　）
人間性の心理学　（岩波書店）
日本の学校　（　〃　）
土地に刻まれた歴史　（　〃　）
孤独の対話　（　〃　）
日本文学の古典　（　〃　）
日本の教育　（　〃　）
青年期の教育　（　〃　）
福沢諭吉　（　〃　）
菅野すが　（岩波書店）
古事記の世界　（　〃　）
スポーツとからだ　（　〃　）
東京大空襲　（　〃　）
ヒロシマノート　（　〃　）
私は二才　（　〃　）
子どものものの考え方　（　〃　）
日本史探訪　11～12集　（角川書店）
日本文学全集　88巻他　（集 英 社）
矢川徳光教育学著作集１～６　（青木書店）
日本伝承童謡集成 1.子守唄　（三 省 堂）
都市の遊び場　（鹿児研究所）
講座　家族　2, 7, 8,　（弘 文 堂）
校本宮沢賢治全集 5, 9, 10, 11,　（筑摩書房）
かもめのジョナサン　（新 潮 社）
史跡と城下町　上田ガイド　（信 濃 路）
心理用語の基礎知識　（有 斐 閣）
極限の人　―病める人とともに　（ルガール社）
風の子太陽の子に　（主婦の友社）
たとえぼくに明日はなくとも　（立風書房）
信州の職人　（第一法規）
高等地図帳　（二宮書店）
長野県の歴史　（山川出版社）
長野県史跡名勝天然記念物調査報告　（信　毎）
戦争と人間　１～15　（三一書房）
さみしい王さま　（新 潮 社）
どくとるマンボウ青春記　（中央公論）
スプーン一杯の幸せ　（祥 伝 社）
遠藤周作ユーモア小説集　（講 談 社）
あやとり、続あやとり　（河出書房）
日本近代教育史事典　（平 凡 社）
ある高校教師の戦後史　（岩波書店）

〔寄贈図書〕

平和への行脚　池田大作の世界　創価学会
人間であること　（岩波書店）　須永先生
国民の教育権　（　〃　）　〃
私の幼児教育論　（　〃　）　〃
自由を子どもに　（　〃　）　〃
人間性の心理学　（　〃　）　〃
ロマンツアー世界音楽めぐりフランス（千趣会）浦沢先生
〃　南北米（　〃　）北村先生
郷土の歴史、城下町上田上下（上田市立博物館）上田市立博物館
郷土の文化財　古建築　（　〃　）　〃
おおぞらに向って　（日本基督教団出版）　須永先生
子どもの遊び空間　（日本放送出版）　〃
長野県教育史5,　教育課程篇（県教育史刊行会）　県教委
Lady nijo's own story
（Charles, E, Tuttle）長野大 柳沢先生
女王卑弥呼と倭の五王（評論社）上田染谷丘高　小林幹雄先生

編集後記

世界的なインフレ、物価高騰で、四五割増の本の価格も、あこがれの図書館イメージとは、なんとかけ離れた状態。なぜ、こんなに知識の豊かな時代に、物質的な豊かさの限界を感じるのは、何故か。「心の豊かさ」と「心の貧しさ」との関係は、今日の社会の直面する最重要課題。「図書館は、何を創造すべきか」を考えてみたい。

（関）